

論壇

注目株は「VIP」3カ国

先日テレビの番組で、ある専門新聞の編集長と対談した時、VIPという言葉が出てきた。ベトナムのV、インドのI、フィリピンのPのことを指しているようだ。最近、株価や経済成長のパフォーマンスが良い国を並べたという。そう言えば、かつてはBRICSと言われた。ブラジル、ロシア、インド、中国のことを指しており、新興国の発展の勢いを象徴した呼称だった。残念ながらBRICSの成長には翳りが見えている。それどころか深刻な経済状態にあ

伊藤 元重 学習院大教授(国際経済学)

る国もある。そうした中で新たな注目先としてVIPが出てきたのである。

変動の激しい世界経済であるので、主役が交代するのは当然のことだろう。注目されているVIPの中にも、つまずく国も出てくるかもしれない。ただ、重要な点は、

新興国の経済成長可能性

ブラジルや中国の経済が不振だからといって、すべての新興国が成長しないということではない。所得の低い国は、きつかけさえつかめれば高い成長を遂げることができる。

一口に新興国や途上国と言っても、その中身は多様である。特に

重要なのは所得水準の違いだ。中国やブラジルの1人当たりの所得は5千ドルを超えている。中所得国になったということだ。

変動の激しい世界経済であるので、主役が交代するのは当然のことだろう。注目されているVIPの中にも、つまずく国も出てくるかもしれない。ただ、重要な点は、

もいる。

そうした意味では1人当たりの所得が3千ドルに届かないようなフィリピンやベトナムは、まだ十分に成長の糊代があると言える。政治や経済の安定が続けば、後発国の位置を生かした高い成長率を実現できる。VIPの3国以外でも、インドネシアなども面白い存在だ。これらの国は日本とも友好的な関係にあり、日本に及ぶ恩恵も大きいものと期待される。

先進国の投資で好循環を

チャイナショックやブラジルの経済危機によって、新興国経済全般に厳しい見方をする人が増えている。しかし長い目で見れば、

後発国は高い成長を実現する位置にある。そうした国々が高い成長を実現することが、世界経済の回復にとっても必要なことである。先進国の潤沢な貯蓄が途上国に流れて、有望な投資先に投資資金が回る。これが本来のグローバル経済の好循環である。

これまでは中国があまりにも目立った成長を続けたので、関心が中国だけに集まりすぎた。アジアには他にも成長の可能性を秘めている国はたくさんあるのだ。フィリピン、ベトナム、インドネシア、そしてその先にあるミャンマーやインドの成長に関心を持ってほしい。10年後の日本にとって今以上に重要な国になっているかもしれないのだ。

*この記事は静岡新聞社編集局調査部の許諾を得て転載しています。無断転載、複製を禁じます。